

最終報告書

N-アセトアセチル-2-メチルアニリン（被験物質番号 K-240）の
1-オクタノールと水との間の分配係数試験

(試験番号：80240K)

財団法人 化学工業協会
化学安全センター 化学工業研究所

陳 述 書

財団法人 化学品検査協会
化学品安全センター久留米研究所

試験委託者 通商産業省

試験の表題 *N*-アセトアセチル-2-メチルアニリン（被験物質番号 K-240）の
1-オクタノールと水との間の分配係数試験

試験番号 80240K

上記試験は、「新規化学物質に係る試験及び指定化学物質に係る有害性の調査の項目等を定める命令第4条に規定する試験施設について」（環保業第39号、薬発第229号、59基局第85号、昭和59年3月31日、昭和63年11月18日改正）及び「OECD Principles of Good Laboratory Practice」(May 12, 1981)に従って実施したものです。

1999年3月25日

運営管理者



信 頼 性 保 証 書

財団法人 化学品検査協会

化学品安全センター久留米研究所

試験委託者 通商産業省

試験の表題 N-アセトアセチル-2-メチルアニリン (被験物質番号 K-240) の
1-オクタノールと水との間の分配係数試験

試験番号 80240K

上記試験は財団法人化学品検査協会化学品安全センター久留米研究所の信頼性保証部門が監査及び
査察を実施しており、監査又は査察を行った内容、日付並びに運営管理者及び試験責任者に報告を
行った日付は以下の通りです。

監査又は査察内容	監査又は査察日	報告日 (運営管理者)	報告日 (試験責任者)
試験計画書	1999年 1月13日	1999年 1月14日	1999年 1月14日
	1999年 2月26日	1999年 2月26日	1999年 2月26日
試験実施状況	1999年 1月22日	1999年 1月25日	1999年 1月25日
生データ及び最終報告書	1999年 3月25日	1999年 3月25日	1999年 3月25日

本最終報告書は、試験の方法が正確に記載されており、内容が試験計画及び標準操作手順に従い、
かつ、生データを正確に反映していることを保証します。

1999 年 3 月 25 日

信頼性保証部門責任者



目 次

	頁
表 題	1
試験委託者	1
試験施設	1
試験目的	1
試験法	1
適用 G L P	1
試験日程	2
試験資料の保管	2
試験関係者	2
最終報告書の作成	2
要 約	3
1. 被 験 物 質	4
2. 分配係数試験の実施	6
3. 試験結果	11
4. 試験成績の信頼性に影響を及ぼしたと思われる環境要因	12
5. 備 考	12

表 題	N-アセトアセチル-2-メチルアニリン (被験物質番号 K-240) の1-オクタノールと水との間の分配係数試験
試験委託者	通商産業省 (〒100-8901) 東京都千代田区霞が関一丁目3番1号
試験施設	財団法人 化学品検査協会 化学品安全センター久留米研究所 (〒830-0023) 福岡県久留米市中央町 19-14
試験目的	K-240の1-オクタノールと水との間の分配係数について知見を得る。
試験法	「化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律の運用について」 (昭和62年3月24日、薬発第291号・62基局第171号)において規定 されている「化学物質の分配係数 (1-オクタノール/水) 測定方 法の解説」及び「OECD Guidelines for Testing of Chemicals」 に定める“Partition Coefficient (n-octanol/water) : 107, (Shake Flask Method)” (July 27, 1995)に準拠した。
適用 G L P	(1) 化学物質GLP 「新規化学物質に係る試験及び指定化学物質に係る有害性の調 査の項目等を定める命令第4条に規定する試験施設について」(環 保業第39号、薬発第229号、59基局第85号、昭和59年 3月31日、昭 和63年11月18日改正)を適用した。 (2) OECD-GLP 「OECD Principles of Good Laboratory Practice」(May 12, 1981)を適用した。

試験日程

試験開始日 1999年 1月13日

試験終了日 1999年 3月18日

試験資料の保管

(1) 被験物質

被験物質約5gを保管用容器に入れ密栓後、安定に保存しうる期間、当研究所試料保管室に保管する。

(2) 生データ、資料等

生データ、試験計画書、指示書、その他必要な資料等は最終報告書の写しと共に、試験委託者から通知を受けるまでの期間、当研究所資料保管室に保管する。

試験関係者

試験責任者

[redacted]
所属 試験第一課

試験担当者

[redacted]
[redacted]

最終報告書の作成

試験責任者

1999年3月18日

氏名

[redacted] [redacted]

要 約

試験の表題

N-アセトアセチル-2-メチルアニリン（被験物質番号 K-240）の1-オクタノールと水との間の分配係数試験

試験条件

(1) 被験物質添加量 7.41mg

(2) 測定条件 (単位 mL)

	測定条件-1	測定条件-2	測定条件-3
水飽和1-オクタノール	-	5	15
1-オクタノール飽和水	30	25	15
被 験 物 質 溶 液	5	5	5

(3) 試験温度 $25 \pm 1^{\circ}\text{C}$

(4) 回転数及び時間 20回/分, 5分間

(5) 連 数 $n=2$

(6) 分 析 方 法 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試験結果

	測定値 (log Pow)		全平均
	a	b	
測定条件-1	0.85 (6.1)	0.85 (6.2)	0.85
測定条件-2	0.85 (6.3)	0.84 (6.3)	
測定条件-3	0.85 (6.3)	0.84 (6.3)	

()内に水層のpHを示した。

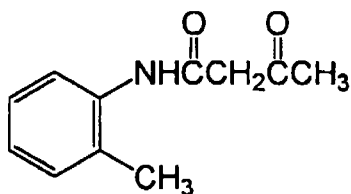
1. 被 験 物 質

本報告書においてK-240は、次の名称等を有するものとする。

1.1 名 称 *N*-アセトアセチル-2-メチルアニリン

1.2 構造式等

構造式



分子式 $C_{11}H_{13}NO_2$

分子量 191.23

1.2 入手先、商品名、等級及びロット番号*

(1) 入 手 先

(2) 商 品 名

(3) 等 級

(4) ロット番号 AW01

1.3 純 度*

被 験 物 質 99.9%

被験物質は純度100%として取り扱った。

* 入手先添付資料による。

1.4 被験物質の確認

赤外吸収スペクトルにより構造を確認した (Fig. 9参照)。

1.5 溶媒への溶解性

対水 3.0g/L (25±1℃)

対1-オクタノール 2 g/L以上 (25±1℃)

1.6 保管条件及び保管条件下での安定性

(1) 保管条件 冷蔵保存

(2) 安定性確認 試験開始前及び測定終了後に被験物質の赤外吸収スペクトルを測定した結果、両スペクトルは一致し、保管条件下で安定であることを確認した (Fig. 9参照)。

2. 分配係数試験の実施

2.1 試験装置、溶媒及び環境条件

(1) 試験装置

回転振とう機	旭テクネイオン製
回転数及び時間	回転数 20回/分, 時間 5分間
平衡容器	全容量 37mL共栓付ガラス製遠心管
遠心分離機	久保田製作所製 6900 1000×g, 20分間 (25±1℃)

(2) 溶媒

1-オクタノール	ナカライテスク製 分配係数測定用 ロット番号 M7T5118
精製水	高杉製薬製 日本薬局方 (蒸留後、イオン交換樹脂 を通して精製処理したもの) ロット番号 A075

(3) 環境条件

実施場所	441恒温室
試験温度	25±1℃

2.2 溶媒の調製

1-オクタノールと精製水とをガラス製容器で24時間以上振とうした後、分離し、それぞれの飽和溶媒として使用した。水飽和1-オクタノール中の水分濃度をカールフイッシャー水分計を用いて測定し、1-オクタノール飽和水中の1-オクタノール濃度をガスクロマトグラフを用いて測定し、各濃度が基準値を満足することを確認した。なお、1-オクタノール飽和水の使用時のpHは5.9であった。

2.3 被験物質溶液の調製

被験物質75mgをはかりとり、水飽和1-オクタノールに溶解して被験物質溶液を調製し、被験物質濃度を測定した。被験物質の測定濃度は1480mg/L (7.75mmol/L)であった (Fig. 4参照)。

2.4 試験溶液の調製及び被験物質の添加

下表に従って測定条件ごとに、2.2で調製した水飽和1-オクタノール及び1-オクタノール飽和水と2.3で調製した被験物質溶液 (被験物質添加量 7.41mg) を平衡容器に添加した。測定は2連で実施した。

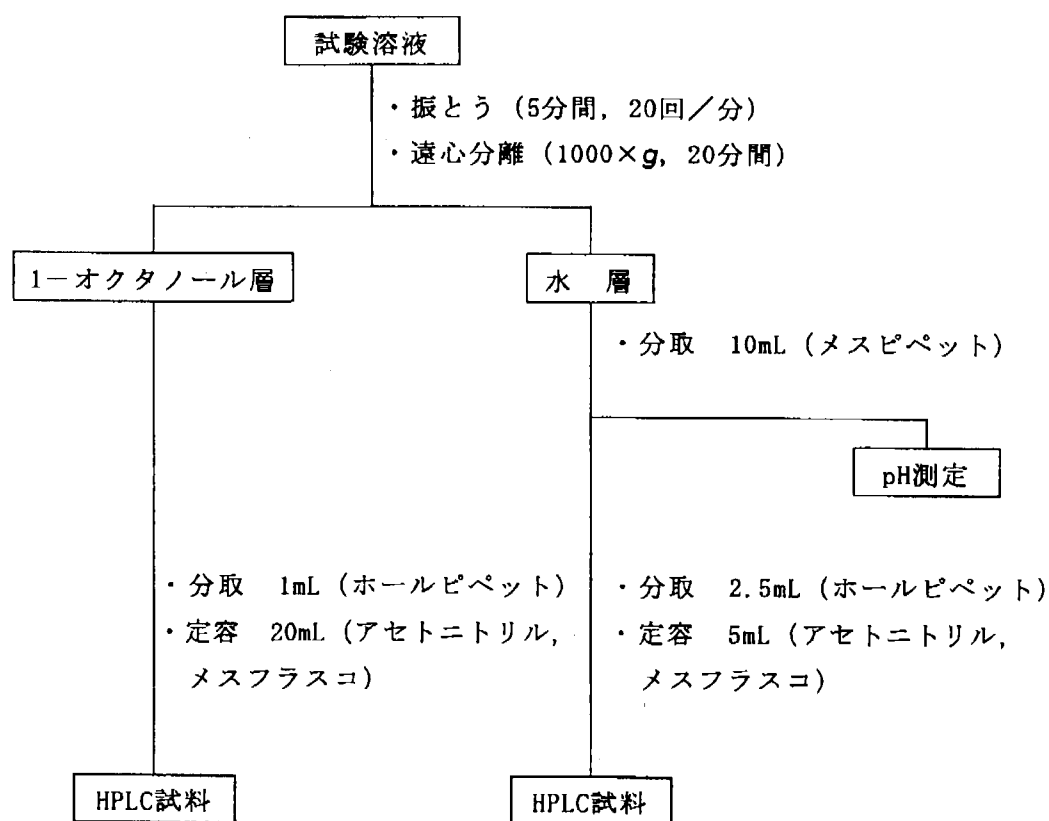
(単位 mL)

	測定条件-1	測定条件-2	測定条件-3
水飽和1-オクタノール	—	5	15
1-オクタノール飽和水	30	25	15
被 験 物 質 溶 液	5	5	5

2.5 試験操作

2.4に基づき調製した試験溶液を以下のフロースキームに従って分配し、1-オクタノール層と水層に分離し、それぞれ前処理を行い、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）試料とした。また、試験時の室温及び水層のpHを測定した。

フロースキーム



2.6 被験物質の定量分析

前処理を行って得られたHPLC試料について、下記の定量条件に基づき高速液体クロマトグラフィーにより定量分析を行った。HPLC試料中の被験物質の濃度は標準溶液及びHPLC試料のクロマトグラム上で得られたピーク面積とを比較し、比例計算して求めた (Table-1, 2、Fig. 3, 7参照)。

ピーク面積の定量下限はノイズレベルを考慮して、 $28000\mu\text{V} \cdot \text{sec}$ (1-オクタノール層分析において被験物質濃度 1.5mg/L、水層分析において被験物質濃度 1.3 mg/L) とした (Fig. 3, 7参照)。

(1) 定量条件

機	器	高速液体クロマトグラフ
ポンプ		日本分光製 880-PU
検出器		日本分光製 870-UV
カラム		L-column ODS 15cm×4.6mmI.D. ステンレス製
溶離液		アセトニトリル/精製水 (1/1 V/V)
流量		1.0mL/min
測定波長		240nm (Fig. 8参照)
注入量		10 μ L
検出器出力		1.0V/AU

(2) 標準溶液の調製

分析試料中の被験物質濃度を求めるための標準溶液の調製は次のように行った。

被験物質100mgを正確にはかりとり、アセトニトリルに溶解して1000mg/Lの被験物質溶液を調製した。これを1-オクタノール層分析用としてアセトニトリルで希釈して30.0mg/L、水層分析用としてアセトニトリル/精製水 (1/1 V/V) で希釈して30.0mg/Lの標準溶液とした。

(3) 検量線の作成

(2)の標準溶液の調製と同様にして、15.0、30.0及び60.0mg/Lの標準溶液を調製した。これらを(1)の定量条件に従って分析し、得られたそれぞれのクロマトグラム上のピーク面積と濃度により検量線を作成した (Fig. 1, 5参照)。

2.7 ブランク試験

2.5及び2.6の操作に準じて被験物質を加えないブランク試験を測定条件-3で行った。この結果、ブランク試験においてクロマトグラム上、被験物質ピーク位置にピークが認められなかった (Fig. 2, 6参照)。

2.8 分配係数の算出

水層中の被験物質濃度及び1-オクタノール層中の被験物質濃度より、以下の式に従って被験物質の分配係数を算出した。

$$P = \log Pow$$

$$Pow = \frac{Co}{Cw}$$

Co : 1-オクタノール層中の被験物質濃度 (mg/L)

Cw : 水層中の被験物質濃度 (mg/L)

計算結果は小数点以下2ケタに丸めて表示した。

2.9 数値の取扱い

数値の丸め方は、JIS Z 8202-1985 参考3規則Bの方法に従った。

3. 試験結果

分配係数及び水層のpHは次のとおりであった。

3.1 分配係数測定結果

(Table-4参照)

		$P_{ow} = \frac{C_o}{C_w}$	$P = \log P_{ow}$		
			測定値	平均値	全平均
測定条件-1	a	7.08	0.85	0.85	0.85 標準偏差 =0.00 最大差 =0.01
	b	7.15	0.85		
測定条件-2	a	7.06	0.85	0.85	
	b	6.99	0.84		
測定条件-3	a	7.01	0.85	0.85	
	b	6.99	0.84		

3.2 水層のpH測定結果

	測定値	
	試料 a	試料 b
測定条件-1	6.1	6.2
測定条件-2	6.3	6.3
測定条件-3	6.3	6.3

3.3 考察

被験物質は解離基を有しているため電気伝導度法を用いて解離性を確認した。その結果、解離性は認められず、被験物質は水中では非解離の状態で存在すると考えられる。従って、被験物質は分配係数試験の適用が適切な化合物と考えられる。

4. 試験成績の信頼性に影響を及ぼしたと思われる環境要因

当該要因はなかった。

5. 備 考

試験に使用した主要な装置・機器、試薬

(1) 装置・機器

高速液体クロマトグラフ	:	9頁参照	
ガスクロマトグラフ	:	島津製作所製	型 GC-9A
紫外可視分光光度計	:	島津製作所製	型 UV-2200A
フーリエ変換赤外分光光度計	:	島津製作所製	型 FTIR-8200PC
カールフィッシャー水分計	:	京都電子工業製	型 MKS-3P
天びん	:	ザルトリウス社製	型 1702MP8
pH計	:	東亜電波工業製	型 HM-60S
回転振とう機	:	6頁参照	
遠心分離機	:	6頁参照	

(2) 試薬

アセトニトリル	:	和光純薬工業製	HPLC用
---------	---	---------	-------